

第5回（仮称）町田市里山環境活用保全計画策定検討委員会 議事要旨

【会議日時及び場所】 日時 2022年2月16日（水）14時～16時 場所 町田市役所 3階 第1委員会室	
【出席者】 （敬称略） ■委員（※はオンラインでの参加） 図司 直也（委員長）、※寺田 徹（副委員長）、大谷 賢二、狩野 真功、斎藤 広志、田中 英夫、中丸 康明、山崎 凱史、伊藤 亨、坂本 愛、※新倉 敏和 ■事務局 守田北部・農政担当部長、粕川農業振興課北部・里山担当課長、牛腸担当課長、田村担当係長、喜多担当係長、浅場主任 ■傍聴者 0人	
【資料】 次第 「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」（案）に対するパブリックコメント実施結果について（資料1） 「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（資料2） 当日配布資料について（資料3）	
【議事要旨】 ・事務局からパブリックコメント実施結果、計画案及び計画名について説明した。 ・質疑応答及び意見交換を行った。	
1 開会	
2 議事 計画名について	
①委員	要綱に基づき検討委員会の委員として委嘱を受けたが、この委員会の目的を確認したい。計画をつくることを任された委員会であるのか、それとも市長に計画の内容を報告することが目的であるのか。市長に計画の内容を報告することが目的であれば、案が本日取れるのはおかしい。 本日の検討委員会後、最終的に市で計画の内容を確認し、その後、計画が確定となるのではないか。
②事務局	この検討委員会是要綱に基づいて設置されている。この検討委員会では、計画案を検討し、検討結果を市長に報告した時点で解散となる。そこまでが委員の皆様の役割である。検討結果を受け、町田市側で意思決定を図り、計画が確定となる。 今の段階では計画案として、市長に報告をする。そのため、「（仮称）」は取れるが、「（案）」はついたまま市長に報告する流れとなる。
「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」（案）に対するパブリックコメント実施結果について及び「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について	
①委員	パブリックコメントについて、数が多く、また真剣な内容が多かったため、感銘を受けた。それだけ、関心の高い計画であることを再認識した。里山について関心が高いということであるので、計画策定後の実施については、多くの方が注目すると思う。計画を策定した

だけではなく、前に進めていけたらよい。

計画の内容について、里山の中に住んでいる立場からすると、生活の場でもあるため、浮ついたことは言われたくないという思いもある。生活している人間にとって、何が大切であるかといえば、安心安全の確保である。特に、安心して通学できる道路である。この計画の実施にあたっては、多くの施策を展開すると思うが、生活基盤と一緒に進めていく必要がある。イベントばかり進められても、地域としても受け入れられない。

生活している人と関わりながら計画を進めていかないと、地についた計画とならない。これからは、町内会としての役割を果たしていきたい。

②委員

パブリックコメントで真面目に意見を寄せていただいている方が多く驚いた。その意見にもあったが、例えば、計画の用語で、「SDGs」や「循環」等が使用されている。用語自体は聞いたことはあるが、抽象的な印象を受けるため、具体的にその用語は何であるのか、用語の定義づけをした方がよい。

また、一番の中心となる新しい里山について聞かれたときに、具体的に昔の里山と新しい里山の何が違うのかははっきりとわかれば、それに向かい、進めることができる。計画の中で、抽象的な表現をなるべく少なくした方がよい。

計画をつくることは素晴らしいが、実行性を担保することが大切である。この検討委員会ではこれで区切りとなるかもしれないが、後から続いてくる方々にも、計画がどのように進捗したのか、具体的に確認してもらうことが大事になる。そのような確認はしっかり行った方がよい。

他の委員が言うように、住む側の人間にとっては、里山の保全と生活環境の保全はイコールである。里山さえきれいになればよいのではなく、住む方が安全安心に治安が悪化せず暮らすことが大前提である。特に私が住んでいる地域だと、里山を保全する地域から漏れてしまう。どうしても、解体業者のヤードがどんどん増えて、必ず年に1度は火災が起こる。そういう状況を見ていると、里山の保全だけが先行して、地元住民の生活が置き去りにならないか恐怖心がある。なるべくそのような地域も取りこぼしがないように忘れないでほしい。

不法投棄についても、現状は所有者の負担で捨てている。そのため、そのような方への手当があると良い。計画に盛り込まれるかはわからないが、生活の上でも取りこぼしがないようにしてもらえると嬉しい。

今後は、計画案に書いている内容を行動に起こすことだけであるので、多くのしごらみがあると思うが、具体的に進めていけたらよいと思っている。

③委員長

新しい里山の定義について、本日の追加資料の中で説明があったが、改めて、事務局から説明していただくとともに、生活環境のところで、行政の縦割りの中で、今回については環境部署から外れるところもあると思うが、市としてどのようにカバーしていくのか、事務局なりの見解を示すとよいのではないかな。

④事務局

1点目の新しい里山とは何かというところでは、この検討委員会の中でも、里山を再生するというキーワードを使用していたが、委員の方より、昔の里山に戻るのではないという意見を頂いた。かつての里山に戻るのではなく、また現状の里山でも課題があるので、新しい里山の価値を高めていくことが必要であると感じている。

計画策定の目的のところで記載しているが、自然環境の意識の高まりや、特にコロナ禍で身近で密でない環境という里山が注目され、実際に人も訪れてきている。そういったところを的確に捉え、より磨き里山の価値を高めていくことが必要である。

今までは取組を地元の方やNPO法人を中心としたボランティアの方で進めてきた。しかし、そのような状況では、限界があり、長続きしないこともある。今まで活動してきた団体が継続して活動できるように支援していかないといけない。それに加えて、今まで関わったことがないような、町田市内でいうと、比較的中心部に住んでいる方や周辺の都市に住んでいる方、あるいは市内外問わず企業であったり、そういった方に新たな取組に参画していただくことが必要である。そこではそれなりの楽しみや稼ぎをしっかりと担保することで持続性を持たせていく。また、里山の場合や材の活用することも必要である。

里山の一つのエリアの中で、経済的な循環、社会的な人と人のコミュニケーションといった循環をつくる必要がある。その結果、生物多様性も含めて環境の循環も生まれる。この辺りを町田ならではのところで進めていきたい。これを新しい里山と言うように考えており、計画書に記載している。今お話したことは追加資料の網掛けの箇所に記載している。

2点目について、地域住民の生活はしっかり守っていかないといけないと思っている。また、今後の進め方についても十分に地域の方の声を聞くことが大切であると感じている。追加資料のところで、行政としての役割や地域の皆様と一緒にやっていくところを少し、書き込んでいる。この計画を推進するにあたっては、小山田、小野路、相原、三輪のそれぞれのエリアで、今後どのような組織形態が良いかは、地域ごとに実情があるので、相談しながら決めていく。何らかの形で組織体を町内会や街づくり団体と相談しながらつくり、そこと頻繁に協議をしていきたいと思っている。計画に位置付けられた取組をより具体的に進めるために、色々お話をしながらやっていく。また、明確な目標値を決めていないところもあるので、そこも含めて皆様と一緒に決めていく。

今後、話し合いをしていく中で、新たな課題も出てくると思う。そういった課題にも対応することで、里山環境全般が良くなることであれば、市が取りまとめ、環境や都市づくり部門と今まで以上に連携を強化して、取組を進めていきたい。

⑤委員

資料の1については、あまり三輪地域のことは記載されていない。記載は北部丘陵地域のことが多いように感じる。

資料の2については、重点事業が達成指標どおり進むか心配である。活動団体が1年で1団体ずつ増えていくと思うが、予定どおり進むか心配である。

三輪地域は、里山の中での生活者はあまりいない。近隣に新しい住宅があって、そこの方の価値観と山の所有者の価値観は異なる。例えば、山の北側に住んでいる人で、近接にある木が大きくなったりすると、日陰になるため、所有者に木を伐採するように依頼してほしいとの相談が自治会宛に届く。木の所有者も業者に依頼するとお金がかかり、簡単には伐採ができないため課題であると感じている。

団体が田や山の保全を行っているが、ボランティアであり、かつ多くの意見もあるため、解散しないといいと思っている。内部分裂があって、解散してしまった団体もある。計画上では、今後団体数を増やしていくとのことである。一方、団体内のまとまりをどのようにしていくのかという課題もある。団体の実情をよく理解して進める必要がある。

⑥委員長

地元の動きを把握した発言をいただいた。

3点意見があったので、事務局より回答をお願いします。

1点目は計画案P31の重点事業2の達成指標である。活動に参画する団体数が増えているが、根拠は大丈夫かというところ。

2点目は、空き家や空き地の管理を巡る問題である。里山の話には付き物である。所有者が基本的な責任となっているが、その部分をどのように考えているのか。

3点目は、NPO法人をはじめとする団体の性格や限界といったところである。ボランティア団体も含め、中間支援の在り方等、今後どのようにしていくのか。間を取り持ちながら、団体を引き継ぐとか、団体の限界をどのように捉えていくのか。

今後、里山の活用の中では、無視できないところである。今後の地域との話し合いの中で進めていくことであるが、その辺りの見解、以上3点の回答をお願いします。

⑦事務局

1点目の団体数の目標値で1団体ずつ増やしていくということであるが、指標の説明や数値の根拠については、計画案のP41に記載している。

2点目について、空き家や空き地の管理は所有者が対応するのが基本である。市の関わりについては、研究していく。空き家については制度があるが、空き地も含めてマッチングするような、制度を構築することが課題である。

3点目について、地域の団体とは話しながら検討していきたい。団体の中のことは行政では介入しにくいいため、困りごとについては、町田市地域活動サポートオフィスという第三者機関があるので、利用すると良いのでは。三輪エリアについては、団体や地域と今まで関係が薄かったため、情報収集や関係性の構築をしていきたい。また、ボランティアの役割は限界ということであるが、中間支援や行政の役割を考える必要がある。

⑧委員

計画の中で、何か一つ長続きするものを実行するにはお金が必要である。対価を得られないものがないと長続きしない。市はURから受け継いだ90haの土地を所有しているが、活かされていない状態である。活かさないともったいない。地域の意見に対し、市も応えてくれないといけない。以前、市の都市計画マスタープランを検討する委員会の話であるが、ある委員の方がこのまま里山の木を放置すると10年後には荒れ放題になってしまうと発言していた。伐採するには1本10万円ほど費用が発生し、何本も伐採するのは難しいと発言していた。

これからは、木を1本伐採したときに、切った人が利益を得る仕組みをつくらないと事業の継続が困難である。対価を得られることを話しあって、どこかにシンボルをつくっていかないと進まない。

⑨事務局

木の伐採は費用がかかり、それなりの対価がないと続かないという話であったと思う。対価を得ることは非常に大事なことでありと感じている。

かつての薪炭林であったクヌギやコナラなどの広葉樹は、50年、60年が経過し、大木となっている。それをなるべく伐採、搬出し、お金に変えていくことを考えていきたい。それをやるのは、山に入るための作業路がないといけない。比較的整備がしやすいところから試行的に進めていきたい。

木材の活用について民間事業者からヒアリングしたところ、里山にある木はストレスなく育っており、木材の価値としてはそれなりにあるが、課題はどのように運び出すかと言っ

ていた。市としても、運び出すところについては、それなりの財源投与をしながら、進めていきたいと思っている。

⑩委員

市はURが区画整理事業を予定していた土地を安価とはいえ、買収したことはとんでもないことである。最低でも、無償かつ、50～100年間の維持管理費を付け、市に移管するのならわかる。維持管理費はなく買収したため、スタートからおかしい。その時に何百億円というお金をもらえば、もっときれいな市有地になった。

ここで、モノレール路線について東京都の検討委員会から答申があった。市長を始め、町田市は東京都から相手にされていない。町田市長が決めた路線について無視されて、違った路線が答申された。まだ少し検討する余地があるようであるが、全然違った路線である。市長はこれで路線が決まったので、都市計画決定し、事業化を進めると言っている。この路線はつくりやすい現道の都道のところをくるくる回り、小山田桜台の方に向かう計画となっている。

4年前に市長と意見交換したところであるが、14年で開通させると言っていた。この前の町田商工会議所主催のシンポジウムの際は、2032年には開通すると言っていた。しかし、先日町田青年会議所主催の市長立候補者の討論会有り、その時は当初の計画から開通時期が2、3年延びると言っていた。

町田市から検討委員会には2人が委員としているが、市長の答申ではない路線が答申された。

小田急多摩線の延伸について、小山田新駅周辺のまちづくりをしないと駅をつくるのは大変であるが、市は小山田新駅周辺のまちづくり構想をつくっても、全くやろうとはしない。また、小田急多摩線の延伸について、都市づくりのマスタープランに入れてほしいと言ったが、小田急電鉄はコロナ禍による影響で、新しい路線は難しいと考えているようで、都市づくりのマスタープランからも文言が消えた。計画等は実現できる内容でつくってほしい。

町内会の役員を6年前にやり、今まで北部丘陵担当の課長職は5、6人変わっている。モノレール担当の課長職も何人も1年ごとに変わっている。

定型的に運営管理していく部署であれば、ある程度人が代わっても、事業は係員が進めることができる。しかし、北部丘陵や都市計画の部署では、職員は真剣にやっているが、1年でいなくなってしまう。本人の意思でないから仕方がないことではあるが。

このパブリックコメントに意見を出し、一応まとめられているが、この意見は活きない。パブリックコメントには素晴らしい意見がたくさんある。この計画よりも、こちらの方がよいかもしれない。

小山田の区画整理が終わったあとのことが、全部白紙に戻ってしまったと思っている。都市づくりのマスタープランとこの計画でうまく協働してもらい、一つでも進むようによろしくお願いします。

⑪委員長

来週市長に計画の報告をする予定があるので、都市づくりのマスタープランと組み合わせていくことについて、かなり地元の意見からも意見を頂いているので、お伝えする。

また、担当者のお話であるが、今年度はかなり足を運び、議論が足りないところはあるが、下地をつくっている。

地元と意見がかみ合うように、今後も職員の異動は検討してほしい。ということであった

⑫委員

ので、お伝えする。

北部丘陵活性化計画、北部丘陵活性化計画アクションプラン、里山環境活用保全計画と今まで3回の検討委員会を行ってきたが、1、2つしか事業は進んでいない。

パブリックコメントで多くのことが言われているが、本当のことばかりである。市民の皆様が関心を持ち、これだけ多くのことを言っていただけることは有り難い。この意見がきっかけとなり、何とかやりたいという思いが強くなった。

やれること、小さなこと一つでもよいので、積み上げることが必要である。

小野路宿里山交流館では、しいたけの植菌体験を7年行っている。毎年雑木林に行き、50年もの大木を伐採し、しいたけの原木を取ってきている。その原木を使用し、小野路宿里山交流館でしいたけの植菌体験を行っている。

2000円ほどの参加費をいただき、運営しているが、利益を生み出すことはできていない。植菌の菌を購入する費用や応援してくれた皆さんへの手間代にはなっている。

コロナ禍で密にならないように、木材をベンチとして活用している。大きな木の丸太や切株は、昨年10本売れた。こういうことで良いので、続けることが大切である。

里山に行き、雑木林を伐採したところと手入れされていないところと比較すると大きな違いがある。

小野路の方はできるところから取組を進めていく。続けていくことの大切さをここで再認識していただき、どうやらできるかということ、リーディングプロジェクトにあるように方法を見つけ、市と地域で進めていかないと、また5年後も同じような状態になってしまう。そのような状態にはなりたくない。委員長には旗振りしていただき、実際にできるようにしていただきたい。

⑬委員長

長く関わってきた身として、重く受け止めている。もう少しできなかったのかという思いを抱えながら、この委員会に臨んでいる。特に地元の皆様の期待に応えられるように、第三者の立場から尽力していく。必要に応じ、お声掛けいただき、近くにいるため必要であれば学生と共に、皆さまところに伺いたいと思っている。

⑭委員

パブリックコメントの回答については、事務局から行うのか。回答しないと行政への不信感につながると思う。

⑮事務局

2点話を頂いた。1点目の大きな木が多くあり、伐採して処理するのが大変であったことについて、私も現場にいたため、状況は理解している。そのところについては、計画のところで説明すると、P30の重点事業を3つ掲げているが、重点事業1のところである。山林の再生のところで、手付かずのところを、市は状況を把握していないため、そこを計画的に調査していきたい。危険な樹木については、予算を投じて伐採していく。その伐採した木を活用につなげられるように考えていきたい。

伐採の時に、市内の業者は技術的に課題があることが想定される。1月15日に里山環境の活用と広葉樹材の活用についてのオンラインシンポジウムを開催したところ、西多摩地域の林業の関係で、チェーンソーをかつぎながら木に登り、上から伐採できる方がいた。そういう方に出張ぎとして、町田に来ていただくこともできるかもしれない。その辺りのことをやるために、森林環境税や森林環境譲与税を有効に活用していきたい。

伐採後の活用については、幸い町田には、木工関係の方が、相原や小野路にいる。そうい

う方も町田の木があれば、利用したいという話もあった。

使える形で製材し、使っていただき、「まちだの木」のようなブランドにして、販売すれば、それなりにコストは回収できていると思っている。

2点目のパブリックコメントの結果の報告については、時期としては4月の上旬を予定している。広報まちだの4月1日号で調整しているが、概要をお知らせしつつ、ホームページには全文を公開する。市政情報課でも閲覧できるようにする。

⑩委員長

パブリックコメントについて、委員の皆様からも、非常に励まされている。また、前向きに受けとめているということであった。何らかの方法で、計画書にうまく記載するとよいのではないかな。

⑪委員

パブリックコメントの意見の多さにびっくりした。全体としてのイメージは、里山の保全、活用について、すごく必要性を感じている前向きな意見が多かった。表現としては、否定的なことも記載してあったが、裏をみると、すごくやってもらいたい、必要性を感じていることを感じた。

町田が好きな方が多いと改めて感じた。マウンテンバイクのサークルと地域の関係性を始め、新しいコミュニティになりつつあるものも芽生えてきていると感じた。こういった動きをしっかりとサポートしていくことで、もっと関わる人が増えていくのではないかな。また、市外の方たちも関わってくれる方が増えてくるのではないかな。

計画の件であるが、期間が10年間で、5年で見直すということであるが、環境変化やナラ枯れの問題もある。実際に倒木も起きている。

これについては、5年で見直すというよりも、もう少し早い段階でも見直しも考えても良いのではないかな。民間企業では、スケジュール管理の中で、ローリングプランというのは、当たり前のように行われている。この計画に縛られてもらいたくはない。

変化に対応していかないと、将来的に市民に受け入れられないように感じる。

不法投棄について、民有地の場合には市は手を出せないのではなく、例えば、クラウドファンディングを使って資金を集めて、民有地の不法投棄を処理するとか、こういったことを行うのも一つの手ではないかな。続けることにより、不法投棄をさせないために、これだけ大変なことをやっているということを知らしめることができる。そういった活動も必要だと思う。当然、クラウドファンディングでは返礼品が必要となるが、薪やしいたけを返礼品として渡すとか、そういったこともできると思う。市が直接クラウドファンディングを行うのは難しいと思うが、民間企業と協力して不法投棄を処理していくかたちでも良いのではないかな。

⑫事務局

計画の早いタイミングでの見直しについてであるが、情勢が目まぐるしく変わる中で、5年で見直しということは、感覚的には遅いと思う。計画推進の考え方になるが、今回限られた時間の中で、十分課題を拾いきれていない。また、先を見越し切れてはいない。

今後色んな地域の団体と話し合いを密にしていけるが、その中で新たに課題であると共有できたものについては、計画に載っていないからやらないということではなく、その課題を解決することで、里山全般が良くなることであれば、それは積極的に進めていくというスタンスで取り組んでいきたい。

計画の見直しということについては、5年でやるが、運用は今説明した形で進めていきたい

①⑨委員	い。 P 3 0、重点事業 1 の 2、事業者等と連携して里山の環境・資源を活用しますの文言で、誤字があるので、修正した方が良い。
②⑩事務局	修正する。
②⑪委員	パブリックコメントの数から関心が高いことを感じた。住民アンケートの結果も含め、住民の心配が多いと実感した。計画の重点事業 2、3 についてであるが、里山に人が入ることによってゴミや立ち入り等の問題を心配している人が多いが、関心がないことで問題が発生することもあるのではないかと。 コロナ禍で自然であったり、公園を求める方が多いと観光協会でも実感している。マップを始め、入って良いところ、悪いところをきちんと発信することで、守られることもあると思う。 現在、愛するまちだフォトコンテストというものを実施しており、対象となる町田の風景を募集した時に、小山田や小野路の里山の写真を投稿していただける方が多いことから、資源として貴重だと思っている方が多いと思っている。 個人的なことという、小学校の田畑の係をしており、田畑の作業を年に 2 回ほどしている。子どもと一緒に、小山田緑地にある畑を耕している。小学校がなくなる話がある中で、親が積極的に参加していた。小学校がなくなってしまうと地域との関係もなくなってしまう。エリアの方と関わる必要があると感じている。住民活動団体ということで、各エリアで活動しているが、指針やリードしていく方が必要だと感じている。今いくつかの団体がエリアで活動している中で、統一する動きがあるのではないかと思っている。
②⑫事務局	エリアごとの団体をまとめ、つくり、運営していく。地域によって実情が様々であるため、事情にあった一番良いやり方をどのようにするか、そこから皆さんと話しをしていくことが大切であると感じている。当然、行政という立場で入っていくため、所管している仕事はもちろん、それ以外のリソースも含めて、いろいろな事前情報を得ながら、あるいはその場で回答できなかったものについては、持ち帰り、他の部署に確認し、次の会合で回答するようにしていきたい。 場合によっては、役所の職員である、どうしても、身構えるところもあると思うので、必要性に応じて、例えば外部のアドバイザーのような方に来ていただき、一緒に話をさせていただくというようなことも、必要であると思う。また、今後の話になるが、本日お集まりの先生方であるとか、関連団体の皆様に助言をいただけるように、エリアごとの実情や体制を踏まえ、進めていきたい。進め方も、皆さまと話し合いながら進めていきたい。
②⑬委員	パブリックコメントでもあったが、農地の再生については民有地、市有地ともに J A としても進めていきたい。 組合員は高齢化しており、減っているが、小山田、小野路エリアでは若い方で頑張っている方も多く、新規の就農者の方も農地を借りたい要望もある。ここで始まった農地の賃貸借についても、借りたいという意見の方が多い。 しいたけの原木については、昔は自分の山から切り出している方が多かったが、汚染の問題があり、一時中断したこともあったが、今は農家の方が原木を購入している。そういう

ことを市の方で、無料とは言わなくても安価で、提供していただけるとよいのでは。しいたけをつくっている農家も減っている。しいたけ部会というものがあるが、会員数が少ない状態となっているため、支援があれば、農家の方の就農にもつながるのではないかと。今後、計画の実行にあたり、色々お手伝いできることもあると思うが、今後ともよろしくお願いします。

②④事務局

2点話をいただいた。農地の再生については、計画の重点事業1で進めていく。併せて、同時に改訂している農業振興計画についても、農地の再生を進めていくというところで、今後市有地については5年で10000㎡進めていく。

民有地の農地については、東京都の農地再生の補助メニューをうまく活用できるよう農地所有者に情報提供しながら、民有地の農地再生を進めていく。

しいたけの原木について、市内のしいたけをつくる方が外から原木を購入していると初めてきいた。

先日、青梅市の担当者とお話することがあり、青梅市は山林所有者、しいたけ部会と協定を締結し、原木を民有地、市有地含めた山林からうまく切り出し、それをしいたけ農家に提供するという仕組みがあることを教えていただいたので、研究させていただき、もし町田版ができるようであれば、そういった制度を検討していきたい。

②⑤委員

今言われたことは一般的に誰でも言えることである。しかし、しいたけの原木を売っても地域の利益にはつながらない。小山田で農業をすることはできない。

もっと地元の声を聞いてほしい。

②⑥委員

農家の方も色々いるが、一生懸命頑張っている農家もいる。

②⑦委員長

J Aとしても、組織改革を行い、組合員との向き合い方が求められている。市でも里山についての情報発信をしっかり行っていくということであるので、ぜひJ Aとの距離を縮めていただきたい。

②⑧副委員長

今回の計画は策定までの時間が少なかった。そのため、すぐにできそうなところを地域ごとのリーディングプロジェクトとして位置付けた。ここが一番のポイントであると思っている。リーディングプロジェクトについては、既に走り始めている箇所も含まれている。とにかく、小さなことでもよいので、できるところから始めていった方がよい。着実に一つずつ、地域に寄り添い、多くの方に関わっていただきながら、進めていくことがこの計画の実行性を高めるためにあたり不可欠であると思う。

市街化調整区域で様々な課題があることは承知している。パブリックコメントの意見でも、今回の計画以外のことも含めて、様々な課題や、不安や焦燥感というものを感じた。市街化調整区域は難しい地域であるが、今回は中でも里山の問題を扱い、そして、里山の問題の中でも、様々なあるが、リーディングプロジェクトという形で、できそうなところに絞っているところがポイントであると思っている。

計画を公開してから進めるものではなく、進められるところから積極的に進めていくことが必要である。どんな小さいことでもよいので、着実に進めていくことが大切であると感じている。

パブリックコメントを今回116件頂いて、この計画の中で、反映しきれない貴重な意見もたくさん頂いている。例えば、バイオマスエネルギーの利用やバイオマスボイラーを導入することは、予算化しやすいことでもある。公共施設であれば、ハードルは高くないと思う。こうしたことは今回の計画に含めていないが、ある程度取組を進めていき、予算が下りてくるようになれば、次は使い方を拡大していこうということで、有効な活用策の一つとして、バイオマス熱量があると思う。

計画の進捗と状況変化を鑑みながら、柔軟にできることを進め、皆さんで合意し、実績をつくるのが大事であるとの検討委員会を通じて感じた。

②事務局

本日欠席の委員からご意見をいただいたので、紹介する。

パブリックコメントの意見が多かった。その中身も前向きな意見が多かった。改めて、市民の意識の高さを感じた。併せて、住民の皆様の切実な思いも強く出ていたので、そういったご意見を市としてしっかりと受け止めて、進めていくことが大事である。

特に、重点事業3の戦略的な情報発信のところで、今までコメントいただいた方に対し、しっかりと答え、取組を説明していくことが必要である。情報発信の方法を、行政の職員は苦手なところがあるが、しっかりと勉強して、うまく発信してほしい。そういうことをすることにより、結局のところ、重点事業の2の新たな担い手の確保につながっていく。

③委員

計画名はこれで確定したのか。東京・町田発新しい里山づくりという言葉は、本当は進んでいない中で、これから他のところに、説明するような地域ではない。この計画を5年、10年進め、多くの成果を得た段階の方が良いのではないか。今はそのような状況ではなく、町田の状況を見ると恥ずかしい状況である。この計画名については削除してほしい。

③委員

一生懸命やっているグループがいる。町田市の中で、環境保全しながらNPO法人として活動しており、なおかつ、人員数を増えているところもある。その結果、里山が徐々に良くなり、動植物も増えている。成果を上げているところもある。半分は荒廃しているかもしれないが、成果は上げているため、計画名は東京・町田発でよいのではと納得している。少しは町田市の良いところを発信して、来てくれるところがあっても良いのではないか。

③事務局

新しい里山というできた里山を発信するのではなく、つくり始めていくというような決意表明の意味合いを込めて、東京・町田発新しい里山づくりをやっていくという意味合いである。

今までやっていただいた方ももちろん継続的に活動していただきたい。ただ、手付かずのところも多くあるため、そういったところも含めて、多くの人に仲間に入ってきてほしいと思っている。このような中で、それなりに強い言葉で発信していかないと、なかなか仲間が集まってこないと思い、目に留まるよう名前を計画名とすることで、推進力を高めていきたい。

③委員

「新しい里山づくり」というフレーズであるが、「新しい里山」と「新しくつくる」という意味で捉えていた。新しいが両方にかかってくるのではないかと感じていた。今の姿を見せるのではなく、10年後の姿を見てくれという、ある意味挑戦状であると思っていたので、この計画名でよいと思う。

③④事務局

事務局内の議論で、当初は、「新しい里山」づくりであつたりとか、全部かぎかっこをつけて「新しい里山づくり」とするとかあつたが、委員が言うように、新しい里山を将来に発信していくということもあるが、その過程も含め、発信していくため、かぎかっこをつけないほうが良いのではという結論になった。意図は委員が発言したとおりである。

③⑤副委員長

副題は、興味関心が高い方に見てほしいというような、そういう副題だと思う。これからそれなりのことをやっていくという覚悟を示すような副題であると思う。里山の問題は待ったなしの状態である。先ほど、挑戦状という言葉があつたが、こうした形で示していかないと10年後は悪くなってしまう。そういう危機的な認識をあえて見せていく意味ではないか。楽観視しているのではなく、真剣にまずいと思っているため、しっかりと進めていくという意味表明として、この副題を付けた方がよい。副題を付けることにより、市外の方が、町田市に来ることにつながると思う。そうした方にも関心を持ってもらうのであれば、計画に巻き込み、町田の里山をより良くしていくというように前向きに捉えていけば、よいと思っている。この副題がないと、全て感じて固い印象を受け、見向きもされない可能性もあるため、この副題はあつた方がよい。

③⑥委員

副題は正直何でもよいと思っている。副題が気にいらないから、協力しないという方がいるのであれば、そういった人も元々協力しないと思う。副題が良かろうが、悪かろうが、やろうと思う人はやるので、どうでもよいと思う。一般の方も気にしない。このような委員会の委員であると、多少気になるかもしれないが、一般の方は気にしないと思うし、覚えていない。もっと軽く考えてよいのではと思う。

③⑦委員長

町田として、これだけの動きをつくっていくということは、他の地域ではなかなかない。北部丘陵地域をはじめとする地域の特性も踏まえ、チャレンジしていかないといけないところもある。今後は、次の世代につなげていくことを考える必要がある。

この委員会では意見が活発にあり、それなりの苦労もあるが、それだけこの資源の大切さを地域の皆様も向き合っているところでは感銘も受ける。パブリックコメントではそのことを象徴している。委員の意見も受け止めつつ、その都度どのように支え、次の世代にバトンを渡していくのかこの計画に課されたミッションであると思う。当然地域の皆様の安心安全が支えられないと、地域には理解されないため、そこは向き合っていないといけない。

この計画があることで、地域の皆様や周りの皆様にとって、引き付けられるというところが、大きな強みであると思うため、それだけの応援団が周りにいるということを含めながら、これを進めていくことが大事であると本日改めて感じた。

③⑧委員

東京・町田発新しい里山づくりとして、つくった以上、市は何か目的があると思う。例えば、山林や農地をどのようにするのか、具体的に記載した方がよい。この計画では抽象的である。

この計画は新しい里山づくりという、進行最中の意味でもあるが、それだけではなく、山林は新しい構想に基づき、どのようにしていくのかと市が描くことが必要である。地域としては、構想を描いている。いつかは、市と地域の構想を重ねていかななくてはならないと

良いものはできない。市が最初に案を出し、地域が意見を出すかたちにするとよりよく進むのではないか。言葉だけ先行してもうまくいかない。これから先の話を考えていかななくてはならない。

③⑨委員長

今の委員の意見は、答申の際にしっかりとお伝えする。市有地の今後の取扱いについては、市の覚悟が必要であるということであった。

④⑩委員

そもそもこの計画が始まったのは、URが小山田、小野路の区画整理事業を中止したことが始まりである。その地域をどのようにしていくか考えるところから始まった。今回、相原地区、三輪地区にも仲間に入ってもらい、全体を考えるようになったので、中身が変更となった。本来であれば、区画整理事業を止めたところをどのようにしていくのかが、基本であるため、その経緯からすると疑問にも感じる。

④⑪委員長

改めて計画名称については、皆さまから同意いただいた。様々のご意見をいただき、市として今後について、しっかりと進めてほしいということを、市長報告の際にお伝えする。細かい文言等について、修正があるかもしれないが、事務局と委員長に一任ということで、予め了承いただければと思う。

3. その他

①事務局

有り難うございました。

これまで、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、5回にわたり検討委員会にご参加いただき有り難うございました。計画の委員会以外にも、開催回数が少ないということもありまして、個別に説明させていただきました。重ねてお礼を申し上げます。皆様の貴重なご意見を大切にしながら検討を重ね、計画を取りまとめることができました。委員の皆様からご意見がありましたが、計画を策定することがゴールではない。これまでも計画を何度かつくり、効果的に進められていなかったところもありましたので、これからは地域の皆様と連携しながら、着実に実行性のある取り組みをしっかりと考え、進めていきます。タイトルにもあるとおり、これから新しい里山を目指し、地域や委員の皆様と協力しながら取組を進めていきます。今後ともよろしくお願いします。

今後の予定ですが、2月21日に検討委員会から今まで検討してきた計画について、市長報告をします。皆様の意見を委員長から市長にお伝えする予定となっています。当日は、委員長と副委員長が代表し、出席いただきますので、承知ください。その後、4月1日に計画の公表を予定しています。3月議会に行政報告というかたちで報告を行い、その後、公表するかたちとなっています。委員の皆様には、製本した計画を4月1日以降にお送りする予定となっています。また、今回の検討委員会については、最後となりますが、来年度以降については、計画に記載していますが、推進委員会を年に1回程度開催し、リーディングプロジェクト等の進捗について、助言をいただきながら、確認する予定となっています。来年度以降もご協力いただきますようお願いいたします。これで以上となります。本日はお忙しいところ、貴重なお時間をいただき有り難うございました。

4. 閉会